

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3290400138
法人名	株式会社 メデカジャパン
事業所名	出雲ケアセンターそよ風
所在地 (電話番号)	鳥根県出雲市今市町876-9 (電 話) 0853-20-0950
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1
訪問調査日	平成21年8月5日

【情報提供票より】(21年 7月 23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 8 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	13 人
非常勤	4 人
常勤換算	人

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋 造り	3 階建ての 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	<input type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1400 円		

(4)利用者の概要(7月 23日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	出雲市民病院、松崎クリニック、さいとう歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームそよ風は平成19年8月に開設され、丸2年が経過したホームである。開設して1年間は管理者の交代(2回)職員の異動があったが、2年目に入り管理者や職員の異動も落ち着き、理念の実現に向けた取り組みが進み始めている。特に地元の今市からの入所者が半数を占め、利用者が馴染みの場所、馴染みの人との関係性が継続できるような支援に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価で提起された改善課題について意識的な取り組みが弱いように感じられた。職員の異動等もあり、改善に向け現在進行形である。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニット毎に全員で取り組み、各ユニットリーダーが話し合いの元に、一部にまとめられた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、活動状況、活動予定の報告をし、地域との関わりなどについて情報や意見の交換が行われている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が意見や不安を言い出し易い雰囲気作りを大切にし、家族との会話を記録に残して検討し、対応している。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者が入所前から利用していた商店、理美容院、神社、寺などとの関係が継続できる支援に取り組んでいる。地元の町内会に加入し、町内行事へ参加、地域ボランティアの受け入れなど、連携に向けた取り組みも行われている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設後、母体組織の理念に、事業所独自の理念についても話し合い、地域密着の役割を明示した理念を作り上げている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時の唱和や玄関、勤務室、トイレなどに掲示して意識付けを行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が地域で利用している商店、理美容院、医院、神社等、ボランティアグループ等のネットワークを図にしてホームの入り口に貼り、地域の人々と交流している様子が分かる取り組みがされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は職員全員で取り組んでいるが、評価から見出される課題の提起が少ないように感じられた。	○	評価を生かすために今一度その狙いや活用方法の理解を深められるようにされるとよいでしょう。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族代表、自治会長、行政関係者で構成され、2ヶ月に1回開かれている。グループホームの活動状況、活動予定を報告し、地域交流に関する問題などを話し合っている。		地域代表の委員について、自治会以外の人への参加や運営推進会議のテーマを決め、テーマについての関係者の参加も検討されるとより有意義なものになるのではないのでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	分からないことなど市役所担当者に相談したり協議するなどして連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月担当者が利用者の様子や健康状態などを書いた便りと預かり金の収支明細の報告も同封し送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時遠慮なく言ってもらえるような雰囲気作りに留意しながら家族との会話を記録に残して検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設2年目は管理者の交代もなく、職員の異動も減少し、利用者との良い関係が築けるようになってきている。異動があった場合は、家族来訪時に紹介を行い、利用者や家族へのダメージを必要最小限に防ぐ配慮に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設のデイサービス、ショートステイとの合同研修、法人外研修、スキルアップ研修など働きながらトレーニングしていくことに取り組んでいる。	○	職員各自のスキルに応じた段階的な年次研修計画があるとよいでしょう。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市グループホーム協議会に加入し、勉強会、研修発表などに参加し、サービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や、体験入所等を利用し、利用者が徐々に馴染めるよう家族と相談しながらサービス利用開始に努められている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的に利用者と共に家事作業を行い、一緒に作る喜びを味わったり、生活文化を学んだりして支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の聞き取りや日々の会話、表情、行動から、希望や意向の把握に努め、その思いに沿った生活ができるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き担当者会議、カンファレンス、モニタリングを行い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、定期的な見直しを行っている。記録紙に介護計画を転載し、計画に沿ったケアを遂行し、モニタリングに役立てている。	○	計画作成(見直し)時に本人、家族の参加をして頂くことで、現状を理解していただきながら、新たな希望や意向の変化にも対応できると思います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じ て、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援 をしている	地域で通い慣れた美容院や喫茶店への支援や併設の デイサービス、ショートステイとの合同レクリエーションを 計画したり、日常的な交流を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得 られたかかりつけ医と事業所の関係を築きな がら、適切な医療を受けられるように支援し ている	かかりつけ医は本人家族と相談して決めている。 昨年より協力医療機関を精神科の専門医に変更し、往 診も行われるようになり、適切な医療を受けられるように 支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、 できるだけ早い段階から本人や家族等ならび にかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員 で方針を共有している	重度化や終末期のケアについて利用者個々の対応は されているが、事務所としての総体的な計画や方針が 確認出来なかった。	○	利用者や家族の意向に対して事業所が対応し得る最大 の支援方法など事業所としての方針を検討されるとよいで しょう。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取 り扱いをしていない	利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねること がないように声かけや対応に配慮がなされていた。訪 問当日には誇りやプライバシーを損ねるような対応は 見受けられなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日 をどのように過ごしたいか、希望にそって支 援している	一人ひとりのペースや、その日の状態、体調に合わせ た柔軟な支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れ、調理味付け、盛り付け、配膳、後片付けを利用者の能力、希望に応じて一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴したい日、時間を大切にして支援している事が確認できた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意分野や楽しみを探し能力を発揮できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や近くの商店、カフェなどに出かけている。 折に触れて花見などの遠出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの出入り口は鍵がかけられていないが、施設の1階の玄関には防犯上鍵がかけられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を行っている。地域の消防隊等との連携の話し合いを進めているところである。	○	非常災害時、地域と連携し助けただけだけでなく、地域の被災者の受け入れの状況等について、事業所として地域に貢献できる事もアピールしていく事も連携の要因のひとつだと思います。備蓄についても事業所全体で準備するののひとつの方法だと思います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量をチェックし、利用者の状況に応じた食事、水分の補給方法を検討して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の集まる食堂は台所が併設されており、明るさ、音、匂いなど家庭的で安らぐ雰囲気がみられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と話し合っ使い慣れたものを持ち込んだり、畳を使用したりしてそれぞれ個性ある居室となっている。		